



交通安全指導 24 年



北海道交通安全実践者として、北海道善行賞に町内北栄町に在住の野口和之さんが選ばれました。野口さんはこれまで24年間にわたり交通安全指導員として街頭指導や、学校での交通安全教室で事故防止の啓発活動に積極的に取り組み、同指導員会の会長も務めるなどの功績が認められました。「今後は後継者の育成にも努めたい」と受賞の抱負を述べていました。(2月8日)

エコな生活を！子ども達が提案



町内の小・中・高等学校の児童会、生徒会の代表が集まり意見交換しあう「タウンミーティング」が行われ、その成果を山内秀治教育長に報告しました。昨年の東日本大震災後の教訓から、環境を守り普段の生活を見直すということで意見が一致、宣言文にしました。「こまめに水を止める」など4つの標語を厳選したポスターを30枚制作。学校や施設に掲示して啓発活動を行います。教育長からは、「学年が違って学びあえる良い経験をしましたね。」と話がありました。(1月25日)

商店街の現状を分析



町が昨年9月～10月に実施した「商店街活性化実態調査」の結果がまとまり、報告会が商工会館と西当別コミュニティーセンターの2箇所で開催されました。町内商店街の実態と今後の活性化に結びつける目的で、商店主、住民、学生にアンケート、聞き取りを実施したもので、報告には女性、子育て世代、学生などが集えるカフェの設置、産直市場などのイベントによる集客など5つの具体策が述べられています。参加者は「若い後継者をどんどん育成しなければ」と話していました。(1月26日)

広 告

広 告

広 告

やっぱり鬼はこわーい！



太鼓の音がすると、ドアから入ってきた青鬼と赤鬼が園児を追い回しました。園児たちは、「鬼はそと！」と落花生を投げつけ、やがて鬼は逃げていきました。

恒例の西保育所（川村あつ子所長・園児 55名）での豆まきでは、保護者が鬼に扮しましたが、乳児組（1歳児）の多くは、その怖さに泣き出していました。

鬼の後には園児や保育士が扮する「福の神」が登場し、落花生、飴玉、チョコレートを播き、他の園児たちは「福はうち」と競って拾いました。

(2月3日)

税金ってなに？租税教室



租税教室が弁華別小学校（高森幸代校長）の、5・6年生（9名）を対象に行われました。

当別町納税課の職員が講師を務め、「税金はどのようなことに使われているのか」「税金がなくなったらどんな世の中になってしまうのか」など、クイズや税に関するビデオの視聴などを交えて税金の役割、大切さを学びました。

講師からは「税金は私たちの共同社会を維持していくための『会費』といえます。皆で公平・平等に負担していかななくてはならないものです。」と説明がありました。

(2月3日)



広 告

広 告

広 告

広 告